

## 嗅覚機能検査は認知症早期発見と予防に期待できる！

浦上 克哉

鳥取大学医学部認知症予防学講座（寄附講座）

認知症をきたす代表疾患であるアルツハイマー型認知症（AD）では記憶障害が出現する前に嗅覚障害が出現する。病理学的にも嗅神経に早期からアミロイドβ蛋白が蓄積することが報告されている。早期に、この嗅覚障害を発見し病気の進展を防ぐことが期待される。そこで、短時間で負担なく施行でき、有効性が期待できる嗅覚スクリーニングキットであるニンテスト（小林製薬）を開発した。嗅覚機能検査は認知機能検査より被験者の抵抗感が少なくスクリーニング検査として優れていると思われる。本邦でも抗アミロイドβ抗体薬が認可されMCIから軽症のAD診断が求められている。現在進行中の治験においては、MCIよりさらに前段階であるPreclinical ADが対象となっている。昨年我々はJ-DEPP研究に参加し、鳥取県琴浦町と鳥根県隠岐の島町で嗅覚機能と認知機能を調査した。認知機能は低下していないが既に嗅覚機能異常を認める方が約6割あることを見出した。MCIからPreclinical ADを早期に見つけるために、嗅覚機能のスクリーニング検査の活用が切り札になる可能性がある。